大正十二年十二月二十四日第三種郵便物認可 毎月一回十五日發行
大正十四年二月十三日印刷納本 大正十四年二月十五日發行

光

第三十八輯

大正十四年二月

◆失業者問題と一燈園……西田天香
◆農村と一燈園生活……小森中喜
◆婦人の求道心について……猛屋法然
◆流ろゝ水に記錄す……松下吉衞

同人 懺悔報恩の仕者
祈願 不二の光明によれる生活
費用 供養されたる淨財

◆貧しきものゝうたへる……住田蓮車
◆一燈園の暮れと正月……八田勝三
◆鹿沼一燈園の樹立……木魚生
◆横濱一燈園だより……石井文雄

一燈園◆宣光社

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は即ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく、削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

不二の光明によりて新生し許されて生きむ。

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委ね佛に養はれ他に障りなき生涯を送らざる可からず。

諸宗の眞髓を禮拜し歸一の大願に參ぜむ。

内外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆倶成就大圓覺

別願　將來世界眞平和

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず、古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

懺悔の爲に奉仕し報恩の爲に行乞せむ。

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脫るゝことを得べき。願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

法爾の淸規に隨ひ世諦を成ぜむ。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生産業に即して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し、以て在家俗諦を成就せんことを期す。

即ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せむ。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天園、文明の隆興も進化の事象も乃至淸規戒行も、此の見地よりすれば即ち一の遂戲三昧に過ぎず。憾むらくは個中の消息、もとよく言辭の盡し得る限りにあらざるを。暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尙自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその淸規を守ることによりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷紛爭葛藤を根絶し、以て齊家、治國平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じては即ち無相不二。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

失業者問題と一燈園

（ある人に問はれて天香さんが答へられし話しの一節）

『相かわらず一燈園へは色々の問題を持つておいでになりましような……』

『左樣、此頃私は京都に居りましても、一燈園へ托鉢する日が少ふて、くわしい事は分りませぬが色々の方が見へましよう。勿論流行りものとして一燈園生活は大分少くなり落付いてまゐりましたが實際問題としてお扱ひになる方は次第に增すばかりであるとおもわれます。一燈園は問題を扱ふ範圍の廣いことにつきましては、或人が百貨店の樣だと申されましたが、適當な評であります。本來が何の主義といふこともなく、また目的とて片よつた定めもなく、おひかりに召されて無相の願をもたせては貰ふものゝ、夫は唯一切の要求に對して緣起してまゐりますので、「我れ」と云ふものゝ勝手な主義主張を持たないのですから、手近い極めて卑近なことでも扱はせてもらひます。たとへば「近頃の結婚は贅澤になりすぎてゐる、かといふて俄かに簡單にするには色々の事情で出來兼ねる、一燈園式て願ひたい」などゝたのまれると、そんなこと迄させて貰ふこともありますが、他のあらゆる「こんな問題はどうします」などゝ聞かしてもらふ問題と共に何れも此人類生活がなるべく落付くやう不安のないやうにとの要求に對して樣々にあらわれますまでのことで、こりかたまつた主義や形はない

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

のです。本來は既におひかゝりにまかせた生涯、云ひかへれば死にきつてあとは御奉公とおもふ生涯ですから、もはや元どりは出來てあるはずです、失業者問題なども承れば氣にかゝりますが、此生活になつては問題にならぬのであります。たとへ大地が陷落して大海になつたとしても問題にならぬはずなのです。景氣がわるいとか良いとかも、國と國との外交が敗れやうが、おひかゝりには何のさわりもない。所謂柳は綠、花は紅で盛衰興亡ともほんの世の一波紋に過ぎないことゝなるのです。そうした境地を恵まれるのでなくては、私等は落付く筈がなく、その落付がなくてはほんとの托鉢が出來ないのであります。

失業者がお氣の毒であることは無論のことでありますが、一燈園では手にかなふだけの托鉢をさせてもらふて、己れの罪を懺悔し、反省するより外ないのであります、若し失業者個人が「私はどうしたらよいでせうか」と此道にたづねられたら、「懺悔の生活をなさるやうに」とお答へするのです、それではすぐに懺悔の生活をと今食へぬ問題の爲めに其場作りの懺悔ぶりを示されても駄目でありますが、若し眞劍ならばそれが緣となつて只に其日の食を得るのみでなく、根本的に救はれなさることになるとおもひます。

そんな手ぬるいことではといふ人もある。併し懺悔と云ふ門をくぐらさないで扱ふ仕事は、別に扱ふ人又役目があります。政府地方廳社會局及社會事業をなさる方々などがあります。一燈園は其分を

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

守らねばなりませぬ。「罪が己れにも、ある」といふ事から先づ眞面目に祈り托鉢し斷食するなどは、一切の人皆兄弟であるといふことからしてやりたいことでありますが、それ以上は出來るだけのお世話の外、片よつた考への運動などは爲すべきでないとおもひます。

一燈園は他を責めるやうな言動は絕對に出來ないのです。資本家の爲めに勞働者の不眞面目を責めるやうな事は勿論出來ず、又失業者の爲めに資本家を責めるやうなことも致しませぬ。たとへ勞働者が怠けて居りましても、それにはそうならねばならぬ復雜な行係りがあるかも知れない。夫れと同様に、資本家が勞働者に仕事を與へぬからとて、それを責むる樣な單純な要求を持ちませぬ、これにもどんな復雜な理由があるかも知れませぬから。勞働者の不眞面目を言うとすれば、勞働者の一面を持つている自分の不眞面目がすぐ見へて懺悔せねばならぬやうになり、また資本家を責めやうとすれば己れの體度のうちにある資本家振りを恥かしく感じて己れが反省せねばならぬやうになるのです。言葉でも論說でも他を責めやうとするときは己れが先づハッキリそうでない迄になりきつた後にと思はれてくるのです、するといつ迄も言へなくなりまた書けなくなり勝です。

併し私の喜びますのは、その反省が實はさけぶより力があり又實蹟が上ることです。簞笥の引出を納めるにたとへますればよく分るやうです。若し引出しの納まるべき空虛の處に何か小さなものが一つありますならば、どれほど押込んでも無事に引出は納まりませぬ。靜かに落付てそのさわりの物を

取除けば、力を用いないでもスル〳〵と納まります。本來は納まる樣に出來てあるもので納めないのは無理するからであるやうです。如何に廣長舌を弄んでもまた大論文であつても、水も漏さぬやうに道理がつまねば力がない、のみならず障りにもなる。私はそれが恐ろしい、障りの物を除くといふことは、自分が徹底的に言ふ資格、書く資格を持つことです。たとへば「なぜその持てる物を他に與へぬか」と人に言はうと思へば、己れが己れより少く持つものゝない迄に無一物になつていねばならぬ。なぜもつと働かないかと說かうと思へば、己れが己れ以上に働くものゝない迄に働いて居らねばならぬ。それをせないでの言葉や論說は嚴肅な意味に於て力がないまた誠がない。からしてまた人も決して肯はぬ。私はそれが恐ろしい。

どうしても園の生活は他を審き得ぬ。おひかゝりの前に恐ろしい事であるとなるのです。同時に己れを省みることに雄々敷進みたい。それが懺悔の生活や托鉢となるのですが、若し全體より又長い時間を通じて、その結果を見まするど、是が一番所謂能率が上つてゐる樣におもわれます。

さけばないでは資本家も增長しましようがさけびかたが惡いときには共倒れになる事がないともいへぬ。やさしくすれば勞働者も不眞面目になり勝かも知れませぬが、引合はぬからとて首をきれば、その結果が矢張共倒れになるかも知れぬ。己れ、己れの會社のみの利を中心に考へることがあぶないことは、己れの身の都合のよい事のみを考へることのあぶないのと同樣である。こんなことを思ふさ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

結局は己れ先づ、眞面目な勞働者たり理想の資本家たりする樣なことが必要で、苟も言議を立てやうとしますれば私等はどうしても自分を完全にさゝげる事に徹底しそのからだを奉仕して祈るといふことになるのです。そうしてそれを言議に換へると言ふ樣な氣持にすゝみたいのであります。

昨冬「働くもの丶家」に始めてまゐりました時當番さんから、一度宿泊していられる勞働者のお方々に講話をせよとの事でした、其時も矢張仕事があぶれてゐまして、家にころがつておいでの方が幾人かありました。仕事がなくてお金がなくてでありますから、食劵も買へない。朝からまだ御飯をたべなさらぬ方があるときいて驚きました。講話もよいがまづお腹を充たす事が必要であるとおもふて、供養されたお金で夕食を百餘人さんにたべてもらひ赤飯までたいてもらふて、あとにお話しをさせてもらひました。その夜のおはなしは勢ひ失業の事に觸れないわけにはゆかぬ。色々話しをすゝめる間に私は一燈園の同人方と失業者の方の事を思ひ並べました。端的に且つ今更らの樣に思ふたのは、一燈園生活には失業がないといふ事であります。無報酬の仕事には失業はない！　私は此大きなさけびを心の内に押へて、小い聲に笑ひを含めて、「一燈園の同人は仕事にあぶれた事がない」と申ましたら聽衆はあぶれた方も共にドット笑ふていられました。

此夕方は私は「働くもの丶家」に來る途中、市役所の人夫さんが、燒け殘りの煉瓦のかけを澤山に小道路に搬んでばらまいて居りました。高い足駄でその道を歩むのに非常に困難を感じました。若しひ

まがあれば幾人でも此煉瓦を平たく均らせば良い仕事であるとおもひながら、「働くものの家」に着いて「今日は仕事にあぶれて飯も食はずに内に寢て居る人が澤山ある」と聽いた時、妙な對照を感じたのです。お金が取れなくとも、寢ていずに一寸門外に出てあの道均らしの仕事が出來ないものか、働けば何處からでも食物は來る、よし來ないでも寢て居るよりは意義がある。その夜の赤飯の供養は寢ていた事に權威があるのではない、若し金がとれなくても遊んで居ては勿體ないから門外の煉瓦を均らそうでないかと立つて仕事をしたとすればいかに輝く事だろう、「働かないでも食は來た」しかし是ではほんとに落付かぬ。「食は來なくても働かう」私はこれなら落付ける、しかし此心がけの人に食の來らぬ事はないはづです。

眞面目で心で合掌して世間を通る人は不思議に不自由なしに惠まれてゆき、相當權威ある惠まれかたをされるものです。園のSさんが京都から靜岡迄無錢で托鉢をされました、此方は物數寄や興味でやつたわけではない。色々の事から深い禱りをこめて路頭に立たれた。十二日目に靜岡に着かれたのに道々非常に自利利他のお惠みがあつたそうである。斷つても惠まれて餘義なく受けた供養が一圓何十錢かあつた。道づれになつた一人の失業勞働者が何處かに行くのに、汽車賃がないとて困つて居られたのに、八拾幾錢の供養をして、己れは矢張テク〳〵歩んできたと申されました。道々托鉢する人には斷つても來る供養があつて、職業を求めてアセル人に汽車賃がなく、反つて奉仕の人に貰つて、次

から次へアセリ歩く求職者は淋い氣持が致します。求めずにすぐそこからSさんに道を聽いて共に托鉢を教へてもらへば、そこから足らぬ事のない同じ自利々他の人になるのです、急げば廻るといふ俚言もある。照顧脚下といふ戒めもある。今の失業者が心の内に先づおひかりを求めたなら、此汽車賃を貰はずに、すぐに又人に汽車賃を與へ得る人になつたでしよう。托鉢の惠まれ方は、仕事もさせてもらひ、同時におひかりをその家と人に分けてゆきます、それでその人その家は供養をしたくなるのです。徒らに己れの身の滿腹を望んでアセルのは他の人と家とにイヤな感じを起させる、自損損他になるやうです。此脈をおしてゆけば失業者問題に隨分と觸れてゆく筈です。

又Hさんといふ園の人が九州から京都迄無錢で來ねばならぬ事があつて合掌と托鉢で無事にやつて來ました。その時の話に、廣島近くの事であるが、大道易者の前に立つてどうしたはづみか、合掌して祈つていた。すると易の先生が、ジツト見つめて五錢の白銅を供養したそうです。此豫期せない供養に對し何日お仕事をさせてもらわうと思ふていると、暫くそこに立つて合掌して下さいと云ふそうです。やがて七八人群がる人をつかまへて先生が說きだした。皆さん御覽なさい、此人の合掌していられる時の顏の相はかゞやいています、私は思はず供養をしたくなりました、顏の相を見ますとすぐに、その人の内容が見へすきます、手の筋でも同じこと、何でも一目見ればすぐに其人の運命がわかります商業、緣談、家運、何々でもと、滔々と述べ出したそうです。Hさんも少々落付かなくな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

つて歩み出したさうですか、どうやら易の先生もお客にありついて五錢には無論なつたらしい、と笑つて話されました。是は一場の笑ひ話しにするには勿體ない。此内に失業者自身が考へて見るべき材料が豊かに含まれています。もらう爲めに合掌したのでもない、また客をつる爲めに五錢の元入れをしたのでもない、人の靈は物を支配してゆく妙な力があります。失業者かて自から反省する餘地は澤山にあるやうにも思はれす。決して失業者と運命づけられたものでもない。私等は失業者を對岸の火災を視るやうな體度で、あり餘る財物を持つて居てはすまぬとおもふと同時に、失業者の爲めと言ふてあるく失業者の群に加はりたくない。失業者なりといふて道によらず、唯徒らに金錢を貰ひに歩くやうな事も、決して志してはならぬと自から戒めたいのです。私等は如何なる失業者とも、同じ運命に自分のからだを置いて見ます、そうしたからだを持つて無縁の處に立ちますとしても、何時でも何處からでも前々申した樣に自利々他（イヤ〱出さるのは自損々他である）の生活を爲し、若しそこに落付かうとすれば何處にても落付く事の出來るやうな生活振りを證明してそれを土產に失業者の方の爲めに祈りたい。人格をかゞやかす事に祈りを込めないでは出來ないことになるかも知れぬ。けれども早晩人は眞面目にならなければならぬとおもひます。若し酒はのみたいし、餘あれば消費したいといふ樣な人格そのまゝでありたいならば、これは其持方が其身を失業者としたのかも知れぬ。求めて失業者になるのであるときは、どうすることも出來ないとおもひます。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

なんですか？一燈園に―事務所をおいて、自由勞働者の爲めに中央勞働組合が運動をしていると仰やるのですか、一向私は知りませぬ。恐らく間違でしよふ、一燈園はそうした事には何の關係もありませぬ。光の誌上の各人のお説のことですか、それは御銘々の見方です。混雜した感じを讀者に與へると仰やれば無理もないのですが、私の力の及ばぬことです。私の信じ且歩む一燈園の體度は、何れにも片よらない白道です、「すべての罪は自分にある」といふ懺悔の生活です。組織惡とか失業問題とかに無關心であるといふではない、己れの罪を整理しないで一方の爲めにさけぶことは、私達の受持でないのです。そうして托鉢はそれにも劣らぬ解決の方法に捧げさせてもらふていると信ずるのであります。目前のバランスが一方に片よつてあるのを見て、徒らにさけびましても、靜かに全體を見破るときに、「まだ足らなんだ」と知ることもあるものです。兎に角私は審けない、私の歩む一燈園の信行は、何れにも片よらない自省懺悔の體度です。私と一燈園とを一つと見て下さるならば一燈園生活もそうあるべきです。色々復雜になつてきます、わるい考へでなくてもいつのまにか一燈園を利用する人も出てまゐりましよふ、一燈園とか同人とか申されても、その名刺や言葉に信をおかないでいたゞきたい、名刺や言葉やで働きかける人は、もはやその體度が、純な一燈園生活でないのであります。色々御心配をかけてすみませぬ。私の不德をおわび申します。すまない事であります。私の行屆かないからでもありますが、知らない事で世間に誤解される事も澤山あるとおもひます。おきゝ下されてかくお答をしまする機會を惠まれて難有いとおもいます。』

農村と一燈園生活

小森中喜

長い間平和と見られてゐた農村の生活も、社會思潮の變遷と共に、今日では、最早此のまゝでは決して過されないとは、誰もが共に等しく感ずるところでありませう。自村初め此の郡内（京都府久世郡）の實際だけを見ましても、そのことが痛切に思はされます。○何か話せと仰有るんですか、困りましたな、私は御覽の通りの百姓で書くことも、喋舌ることも、とても出來ないのですが。○ては、地主の小さい一人として自分の村のことを少し申させていたゞきませう。

（一）

今年（大正十三年）は昨年より豊作でありましたが、矢張り二三年來の例とでも言ひませうか、納米の割引を十一月中旬、小作側から地主側へ要求して來たのです。小作側に立つて考へて見れば、之も亦無理のないことなのです。一般に農作に要する費用が、近年特に著しく昂騰して來ました、それに加へて、今年は御承知の通りの大旱魃でありましたゝめ、一層費用と手間とが掛つたのですから、作人達が要求するのは尤もだと私は思ひました。併し、その頃はまだ郡内一般にも未解決でありましたので、近村の調停の模様を見た上でと思ひ延ばして貰ひました。續いて、十一月下旬と、十二月上

旬とに小作側から地主側へ催促がありました。作人からの要求通りにしたのでは、私達地主は亦生活が立てなくなりますので、いろ〳〵と考究して見ましたが、甘い方法も見つかりません。作人は催促する、地主は考へがまとまらん、本當に困りました。從來は、私共の村でも、小作爭議は可成り强硬でありましたが、近ごろではお蔭様で大層圓滿になつて來ました、殊に、本年は近村の例に順じやうといふ相談にもなつてゐたのでありますが、何處も爭議が長引いて、解決が出ませんので、「では、どうぞ君達の負けて貰ひたいといふ率が凡そ定つてゐるのならば、言ふて貰ひたい」、と申しましたが「何ぼ負けてくれ」といふことは作人の方でも申しませんのです。

丁度、そんな相談をしてゐる時に、近村で二割引に定つたといふ噂が入りました。

作人から「去年は一割負けが少なかつたから、今年はもう少し負けて貰へないか」、と言ふて參りました。

地主の方は「それは尤もだ。自分が作をして見ても、君達のいふことの無理でないのはよく解る。併し君達作人のいふ通りにすれば地主が引き合はぬ、地主のいふ通りにしたのでは作人が困る。それで、今日では、何方の側から見ても、どうしても勘定が合はぬことになつて了つたのだ。農村生活者全體が社會的に不利な立場にあるといふことを、よく君達にも理解して貰ひたい。」

と申しますと、作人の方も、

「それは奈何にも御尤もです。それで、私達も私達の立場ばかりは申しません。地主の立場も十分察して居り乍ら、無理申上げることは相濟まぬが、どうぞ、此處しばらくの間誠に濟まぬが割引きして貰ひたい。」

「さうおとなしく言はれると、猶々拒絶することが出來なくなる。それでは、近村に二割といふ例が上つたのだから、世間並にいふことにすれば承知してくれるだらう、地主もさうするのは苦しいがさうさせて貰はうと思ふ。處で、此の二割の內、五分だけは地主の方に預らせて貰ふては奈何だらう。さうして、必要の場合には、その五分を皆のものとして出させて貰はうし、また、その時生產上の必要とあれば、その五分以上でも、地主から出させて貰ふてもよろしい。」

作人の方は「預けておくのが當然だが、何分、まだ今日では、一般の作人がそこまで思てくれぬ故その五分を作人の方へ預らせて貰ひたい。」

地主としては、元々作人のためを思つてのことでありましたので、さう切望されたのを、たつてと言ふては、反つて村の圓滿を缺く、圓滿を缺いてまで預る必要はないことですから、

「では、どうぞさういふことにして下さい。さうして、その五分はお光りから預れる物と思ふて、濫りに消費して了はぬやう、成るべくなら、その五分は有利なる方面——農村として最も必要な方へ使ふとか、或は貯金にして、各戶の萬一の場合のためのやうなことにとつておいてくれるやう賴む。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

猶、此の上に、もしまだ生産上のことのため、金の入費が、作人達だけて手に合はぬ場合には、地主の方でも相談に預らせて貰ふ。之れだけより絶對に負けはないとは思ふてくれるな。」

さう地主の心持をきいて、作人はより以上滿足したのか、至つて眞面目に、謙遜して、地主に深くお禮を言ひました。

地主の方も、作人からそこまでお禮を言はれ、感謝の意を表されたので、何となく、今までの自分達が濟まないやうな感じがしました。さうして、負ける負けぬなぞいふことを超へた、言ふに言はれぬ親密な情愛が生じました。さうして作人の方でも、地主から必要と認めて地所の返還を要求する場合は、快く返すといふことも承知しました。之れは地主が作人のいふことを心から取り入れたので、作人も快く諾いてくれたのだと思ひます。今までなら、作人は絶對に借りた地所を返さうとせず、また地主も必要もなきに返せと言つたりして、お互に怨みの種を作り合ふてゐたのでした。地主側も作人側も、何だか涙ぐましいやうな氣持で、お互ひに喜びつゝ負けの話は形づきました。さうして、今後共、地主作人共同して、農村の發展と農村生活者の安定とのために力を入れやうと誓ひました。

さうして、三四日經て、競ふて一人の滯納なく合格米を作人達は納めました。地主は三五年此の方にない作人達の心持を心から喜んで迎へました。

本年の解決は大體こんなことてあつたのです、その納め切つたのが十二月十四日でありました。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

おかげさまで、解決はさういふ具合につきましたが、今日各地では作人地主激烈な爭議があるのに私達の村ではかういふ有り難い具合になつたのは、全く一燈園生活のお蔭だと、私は心からお光りに感謝して居ります。

（二）

飜つて考へますと、大正十二年度の爭議の時は、此の村でも、兩方が敵對し、鎬を削つて爭ふたのでした。その折、いろ〳〵の戰法を取らんがため、いろ〳〵の名士をお賴みもしました。さうして、地主側と小作側と一層の混亂をするのでありました。十三年の正月に、その頃はまだ爭議の最中でありましたが、天香さんが、近村へ講演に呼ばれて來て居るといふことをきゝましたので、此の村にもお賴みして來て貰ひました。その時、天香さんは、何れかの側に味方するやうなことは、一言も申されませんでした。たゞ、世の中が進んで、文化的といふが、文明といふか、皆が華美怠慢にして日を暮らすやうになつたといふことを察しられて、生產、實生活のためには、みなが努力することをすゝめられました。その時の話には、村人は皆感心して、淚流して聞かせていたゞきました。併し、その時の私共の感想は、一燈園の生活や心持は結構だが、實行が至難だといふことでありました。

その後、一燈園の同人の方が、此の地方に三五人程見え、それからは、今日まで引き續き、常に幾人かづゝ托鉢に來てゐて下さいます。その人達は理屈を說かず、柔和な態度で、他から賴まれたこと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

を働らくのでした。それを村の人全體が注目するやうになりました。だん／＼不思議に思ふやうになりました。寄ると觸はると、「何のためか、どういふ希望を持つてゐるのだらう」と疑問にし出したのであります。何ぼ訊ねて見ても、同人達は說かず、語らず、たゞ下坐して他さんのお仕事に精を出してゐる。幾ら働らいても賃錢は取らず、而も何の不自由もないやうに、結構だ、難有い、と言ふて此の世の中を極樂のやうにくらしてゐる。

いくら思ふて見ても、それ以外になさゝうだ。村人には不思議でたまらぬ。幾日、幾月たつて見ても、その人達は相變らずその氣分でやつてゐる。同人達のかうした暮しは、何も一言も話されん間に村人達の間に、地下水のやうに浸み込んだのであります。毎日あゝしてたゞ働いてゐる人の方が不自由がなく、殺し合ひせねばかりに、取らう／＼とあせつて暮してゐる者の方が、反て物が足りなくなるのか知らんといふことが、お互に省みられて來ました。だが、實際の問題に當ると矢張り慾がとれぬ。着た上にもまだ着物が欲しい、うまい物は食つても食つても食ひたいのです。處が、同人たちは、汚ない物を着、まづいものを喰べて滿足してゐる有樣、その人達を見てゐると、どうもその方が本當さうだ。今まで自分達のしてゐたことは間違つてゐた。ある程度までは、生活に必要なものは、働らいて得なくてはならぬが、それ以上は反て生活を汚す、不純にする。無理なく與へられたものを預る方がよいといふことが、自然に村人達に解つて來たものだらうと思ひます。

地主は作人を敵者と見るやうな氣持が薄らいて來ました。作人は亦地主に德を取られてしぼられて居るのではないといふことが解つて來たやうに思はれます。道で會つても、此の三五年來引き續きあつたやうな睨み合ひの氣持が薄らいだやうな表情が、相方に無意識的に現れ出しました。

特にそうした情愛の現れましたのは、本年八月頃、水田に水が全くなくなつたころでした。之れ位の旱魃で、此の田地の德を滅してはならぬといふ祈りの氣持が相方に濃厚に働きました。作人は地を預つてゐるからには、力一杯に耕作せねばならぬといふ氣持になり、地主は亦十分の作をとらせねば作人達が氣の毒だといふ感じが起つたのです。それで、何方もその分に應じた力、地主の資力と、作人の勞力とを一つに合せ、勵み合ふて、大旱魃の難を免れやうと努力しました。水利、耕地整理、排水等に必死となつて盡しました。かうして苦勞を共にして居る間に、作人と地主との情愛は一層親密濃厚なものとなつて來ました。おかげで、本年は隨分非度い不作の地方もあつたに係らず、私共の村は、旱魃のため反つて豊作でさへありました。

處が收穫となり、總勘定して見ると、何彼と餘分の雜用が要つてゐますので、相方共矢張り引き合はぬ譯です。で、作人は地主に向つて、無理と知りつゝ割引を要求せずに居られなくなつのです。その要求の仕方は眞心と驅け引きなしで、謙遜な態度で持ち出されました。地主も、夏以來の作人の働き振りや、一々の事情、要求の內容等を汲み取つて見ると自分等の立場ばかり顧慮してゐることが出

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

來なくなりました。で、作人からの要求を、無理なものとは始めから決して思つてはかゝりませんでした。出來うべき物なら十分に、力一杯してやりたいといふ氣持で申出をきゝました。

地主側の私達として一つ案じましたのは、樂々負けて貰つたのだからと言ふので、樂々消費して了はれたのでは困るといふ老婆心でありましたので、先に申しましたやうな提案ともなつた次第なのです。

本年の割引問題は、相方共和らいだ氣持で對し、圓滿のうちに談合出來たやうに思ひます。

今日では、地主も作人も、人あつて我助けるので、自分の我慾のみで行かうとする生活は反つて危うい、自分をも他をも害するといふ自覺に入りつゝあるやうに思はれます。かうした喜ふべき狀態にまで導かれましたのも、元は正しく、一燈園の天香さんなり、同人の方々なりが、此の村に托鉢して下されたおかげで、無言の托鉢の中に、その感化がいつとはなしに村人の心に入り、かうした實際上の事柄にまでも現れて來るやうになつたのでせう。只今では、村の人々は、かうした氣分で暮らすことを切望してゐる狀態です。それだつたら、村の圓滿はいつになつても持續出來るものと自覺する人も、おかげで次第に多くなりつゝあります。

（三）

一村内に地主と小作の爭議が起りますと、その難は單にそれらの人々の間だけで終らないのです。

村に生活してゐる人は、本來何れの側にも關係なき立場にある商賣人、勞働者、學校の先生まで同じ危

を受け、苦しまされます。つまり商人には小作から勘定が入らなくなる、また學校へは、地主も小作も敵の小供と一緒に教育は受けさせぬといふ感情を起す。大工左官等も仕事が出來ぬ。百姓の中でも日傭ひしてゐる者たちは、何方へも働きに行くことが出來ぬ、行けば他の一方から怨まれるといふ具合で、一村全體が困るのです。お寺さんなども大困りです。何分喰ふための現實の問題で必死に爭つてゐるのですから、先祖のためなぞ言つて、菩提を弔つてゐる餘裕が心になくなります。それにもう一つは、本來お寺さんにしても、宮さんにしても、そこには誰彼の區別はありませんので、誰でも行く譯です。處が、お詣りに行けば、勢い反對側の者の面を見ねばならず、見れば遂いやな氣もおこります、そこで自然法事にもお詣りにも行かなくなります。お寺さんと神主さんは誰も村の人が來てくれぬので大困りになります。初穗なぞも、去年は爭議最中だつたので、とう〳〵納めず仕舞でしたが今年は、その埋め合せに、二度集めることにしました。

今日では、誰もがさうしたいやな氣持や、氣乘なぞなく、快く、自由な、打ち開いた氣分で出入してゐますので、ありがたかつたと皆喜んで居ります。さうして、皆で村のため盡すやうになつて居ります。

本當に、誰かゞ爭へば、此の世の中は皆が困る、仲良くすれば、皆が喜べるといふことを、實際に學ばせていたゞきました。

附記　昨年十二月の京都光の友の會席上で、小森さんが此の內容の話しを簡單に話されたのですが、農村の實際問題として、興味深く開かれましたので、暮の二十七日お伺ひして、改めて話していた處を、原稿として纒めさせて頂きました。成るべく氏の言葉や氣持を尊重して書いたつもりですが、若し損じた處がありましたら、偏に私の罪、氏と讀者諸氏にお詫びいたします。（住田蓮車）

婦人の求道心について

菰屋法然

「この絶え間なき瞞し合ひ、この飽くなき奪ひ合ひ、この無意味徒勞な身心の煩ひ、來る日も來る日も幻のような快樂の追求――おゝ世間のあさましい獸の姿は何時までその呪はしい存在を續けるのであらう。私は今こそ思ひきつて浮世に見切りをつけよう。渇ける牝鹿が谷川の水を慕ふように、私の若いたましひはたゞ寂かな世界を、眞實の平和を、淸貧の福音を日夜に慕ひ求める」

多分かうした心の抑へ難き叫びをきいて、Aさんがはるばる東京から鹿ケ谷の一燈園を訪れたのはもう四五年前の夏の初め、家々の軒に菖蒲ふく頃でありました。

Aさんは高等教育をうけて、學問見識もあり、あたまもよく、其上どこか神秘家風な感じもあつて極く無口な無愛想な方ではあるが、言はず語らすの間に、人の魂しひに迫らずに居ないといつたような、强い人格の持主でありました。とうとう意を決して入園されてからは、たゞ一人さびしく世を偲ぶように諸方を托鉢して歩いて居られましたが、半年もするうちに、その優れた個性は何時とはなく同人たちの愛と尊敬の的となり、男子は賴もしい求道の道連として、之に近づくことを喜び、同じ婦人仲間からは母とも姉とも慕はれて、彼等の杖となり柱となつて力を添へる程になりました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

私も無論Aさんに衷心の畏敬と親愛の情とを捧げることに於て、決して人後に落ちませんでした。そのあたまのよさ、その多方面な才能、その善良な人柄、すべて是等は私を敬服させるに十分でしたが特に私の心に消し難い印象を止めたのは、その世間離れした、憎らしいほど深刻な、然も生命の豊かに盛られた個性と、それに附隨して撓まず倦まぬ一途求道の態度とでありました。まだ若い女性の身ではありますが、世間のことは幸福も快樂も一切に背を向けて、たゞ一筋に眞理を求め、その溢れる生命を打ち込んで純な思慕とあこがれに注ぎ、敬虔な掌は日夜永遠の實在に向つて合されてゐるように見えました。時として最高實在への信念が強まつて來ると"Oh Buddha, thou always art in despise of all my perception."(おゝ佛陀よ、あなたは私が知らうと知るまいと常にゐます)と叫び出し、その思慕の念がいよいよ高じて來るとつひに"If thon slayst me, I will cling to thee."(たとひ私を御殺しになつても私はあなたにしがみついてゐます)など〻沈痛な叫びをあげずに居られなくなるのです。そして朝には普賢の行願に參じ暮には觀音の妙力を念じ、昨日は地藏菩薩を禮したかと思ふと今日は法藏比丘を仰ぐといつた風で、殆んど無我夢中、夜に日を繼いで祈つて居られました。かく明けても暮れても血みどろの求道で、時に脫線的な言行もあつたでせうから、一部の人からは氣狂じみてゐるといふ非難を耳にしないでもなかつたのですが、私はむしろ脫線する位の眞劍さを心ひそかに拜んでゐたのです。そしてその金剛不壞の求道心だけは世にも稀なものとして、私の心に消し難い印象

を刻み込んでしまつたのです。

無論かうした求道の旅路は、春の野邊を行くような長閑なものでは決してありませんでした。それは涙と淋しい祈りの長い長い幾日でした。實はAさんは嚴肅な修行こそすれ、内部では愛欲の根ざし人一倍深く、聰明で、一方超凡な調子の高い理想の持主であるだけ、他方暗鬱執拗な宿業の重荷に息も絶えいるばかりの苦惱を體驗されたのです。靈にも肉にも敏感な生活者ならば何人でも經驗する、天國と地獄の複雜な交錯が織り成す、典型的な人間悲劇の舞踏者であつたのです。その特異な個性は屢々數日にわたる慘憺たる靈肉苦闘の果、つひに奇妙な發作をおこしてうち倒れ、その間に異象を見たり豫言めいたことを口走つたりするのを常としました。"Live for pity on all beings like me."(あなたよ、私共惱める者のためにどうぞ生きてゐて下さい。) いつか旅先から貰つた手紙の一節にかうした文句があつたことを記憶して居ります。その悲痛な心根を偲びやつて今でも時々涙をもつて口ずさむのです。

其後間もなく戀愛に走りました。身心共に强壯な女性でしたが、つひに愛慾の苦惱に耐えきれず、その敵し難い强迫に我とも知らずひきずられてしまつたのです。

それから暫くは多分戀愛が惹き起す喜びと悲しみの目まぐるしい渦卷を夢中になつて泳ぎまわつてゐたことでせうが、やがて一燈園を外に旅の人となり、漂泊から漂泊へと渡り歩くようになつて、自

然私共二人は滅多に逢ふ機會がなくなりました、たゞ風の便りに結婚したことを耳にしたのでした。

その後更に一年もたつて或る日一燈園の同人が所用でAさんをその家庭に訪問した際、Aさんはもうすつかり世帶じみて、姙娠何ヶ月かの大きな腹を抱へ乍ら「私は以前園に居た頃は哲學だの宗敎だのと夢中になつてあさつたものでしたが、近頃はもうそんなものには興味を感じなくなつて、編物をしたり漬物の研究でもするのが一番面白い」といつたそうです。

この言葉をきいて私はその變りようの烈しいのに驚きました。つまり世間普通の女と較べて變らなくなつたのに驚いたのです。私はとつさの間に思ひました。「あゝやつぱり女だ。かつては地上の何物も自分のうつろな心を滿たすに足りない、我が救ひはひとり天より來ると確信して、最高の實在を憧れ求めた「まだ若い」求道心は結婚と共に老いさらぼうて、昨今いそいそと家事に沒頭して餘念がないらしい。して見ると以前あれほど眞劍に血みどろになつて日夜に祈り道を求めて居たと思はれたのは、その實、道を求めてゐたのでも何でもなく、充たされない地上の慾の充たされるまで暫く天に向つて叫んで見たにすぎなかつたのだ。その地上の慾の充たされた今、もう問題はなくなつて漬物の研究などに興がつて人並におちつき拂つてゐる。「此の道や來る人もなしに秋の暮」と芭蕉翁はかつて嘆ぜられたそうだがAさんだけはどんなに淋しくてもきつと此道でやりぬく女性の第一人者に相異ないと心深く期待してゐたのに、期待は見事に裏ぎられて、要するに「女は結婚すればおちつく」と

屢々いはれる通り、やつぱり結婚位で解決がつくような地上の問題しか持つてゐなかつたのだ。あれほどのすぐれた女性でもやつぱりそうだとすれば、女はつひに道の器ではないのか」と淋しい思ひが致しました。私はどうしても問題になつて仕方がありませんでしたので、偶々ある先輩が御見えになつたのを幸、右の事情を述べて御意見をうかゞつて見ますと其の答に、「抑も道を求めるとは愛の満足を求めることである。然るに婦人にとつては愛の満足とはよき配偶を得ることを意味する。少くも愛の幾分は配偶によつて満足されるから、それでおちつくのであらう」といはれるのです。此の論法がゆるされるならば、婦人にとつては道を求めるとは結局好き配偶を求めることになりますが、婦人の求道とは果してそうしたものなのでありませうか。もし果して其の通りとすればAさんも亦、求め難い道を求めよつとひとり齷齪するよりは、早く好配偶を得て幾分なりと求道の實際的效果を擧げようと志されたものでせうか。こゝで私は求道とは抑も何を意味するか一つ考へて見たいと思ひます。

先づ人間であつて豚でも神でもない私共は正直に内に省み、心の底深き囁きに耳傾けるならば、其處にどうしても蔽ひ隱せない一つのうつろを見出し、この世の何物をもつてしても充たされないといふ限りなき淋しさを覺えるものです。世間の仕事や享樂を其の儘肯定して之に沒頭し、人生の何物なるかをまともに考へず、自己の不可思議な運命についてまじめな疑問をも持ち得ない人は、其の日其の日の世慾の滿足を追うて、無反省な日を過して居ります。かゝる人は正眼を開いて人生の實相を眺める

こともなく、從つて此世は如何に無明の所産であり、無常苦惱の巷で罪と汚濁と矛盾とに充ち、眞實の安息は地上の何處にも見出せないかといふことを自覺もしません。かゝる人は深く徹して事物の實相を正見することを好みませんから、一時目先の小康に安んじ、はかない安逸を偸んで自ら欺き得ることもありますが、いつかは最後のどたん場に行き詰つて目が醒め、悔い悲しむ時があるでせう。「生死の大海に寄るべなく漂ふ一葉の葦」と釋尊はいはれるのです。「果しなき曠野に牧ふ者もなくさ迷ふ羊の群」と基督もいはれます。正眼を開いて世界を見渡せば、其處には飽くなき貪欲のために三界に流轉し、六道に輪廻して、いつを終りとも分らぬ旅を續けてゐる惱める同胞あるのみです。

かく私共は自己と人生の實相を正見するとき、我が身のうつろさ、世のはかなさを痛感せざるを得ないのは、畢竟我執我慾のためにまことのふるさとなる光の世界が蔽ひ隱されてゐることを自覺するからで、かうした自覺はとりも直さず、大自然の不思議な攝理により、堅い岩にも時に缺目が出來て清冽な岩清水が迸り出るやうに、因緣熟して、私共の固い絕望的な我執の岩にも罅がいつて、無我平等一味の愛の光を感得する瞬間なのです。私共は一度此の光に觸れるや、之を慕ひ求め、此の光の世界こそは必ず實現しなければならぬ唯一のものと確信して、その爲には必要とならば地上の何物をでも大膽に勇敢に振り捨てようといふ大決心を起します。これほどの決心を起してこそ、道を求めると呼ぶにふさはしいと思ふのです。基督は「悲しむ者は幸である、その人は慰められるから」と申され

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

たさうですが、地上の一切に絶望して深い歎きに沈む者は地上の何物を持つて來ても慰められません。私共の悲しみは地上に縛ばられてゐること其の事から來る絶體絶命の悲しみです。同じ地につける戀愛や家庭の成就、其の他教育や富や名譽や乃至人間的な修養位でどうして此の根本的な悲しみが醫されませう。誠に基督の言葉の如くに、私共の絶望的な悲しみは、たゞ天なるもの丶みが慰めてくれるのです。私共は地上に絶望し自己に絶望し理想に絶望し一切の幻影に絶望し、絶體絶命のどん底に陷つて半死半生の苦しい息を吹いてゐる時、ふと暗を照す一燈が音もなく寂しい光を放つてゐることに氣附いたのです。私共は此光を見るが故に、更に明に見たいが故に、徹底的大捨身に進み入らうと決心せずに居れないのです。益はつきり世を捨て自己を捨て何もかも一切を捨て丶、光の十字架を背負はうと決心せずに居れないのです。一燈園とてこれほどぎり〳〵のもので生やさしいものでは決してない筈です。愛の滿足を求めるといふのも、無論局部的な愛執の滿足である筈はなく、此の我執我欲を超越して、自他一味の光の世界に悠遊せんとする純宗教的な願ひに外ならぬので、惜しみなく奪ひ取らんとする愛の滿足の如きは、其の似て非なる者、もとより道を以て呼ぶべき性質のものでは有ません。

然らばか丶る神聖なる愛の滿足を求めるのは、如何にして婦人にとつては、よき配偶の選擇を意味することになるでせうか。此の場合特に婦人にとつてと制限するのは恐らくは神聖な愛の滿足のためには、女子は男子よりも比較的より多く異性の力を必要とすることをいひたいのでありませう。男子

の場合、たとへばアッシジのフランシスが、聖と呼ばれるまで其の魂しひや生活を完成する爲に、同じ道の友なる聖女クララをどれだけ必要としたかわ疑問としても、ダンテやゲーテに至つては明らさまに男子を天の高さにまで導く久遠の女性の偉力を讃美してゐるそうであります。然し此場合も畢意無形な理想的な女性を意味するのであつて、必ずしも肉身の女性を必要としたのではないかも知れません。要するに理性的な男子は芭蕉翁の如く絶對の孤獨に堪え、何等女性の道連れなくして猶は道を成じ得る可能性が多いと思ふのです。然るに女子にあつては神聖な愛の滿足のためには、より多く有形な肉身の男子が必要なのであつて、少くも神の子、まことの光の投影と見ゆるほどの我がよき配偶にたより、之を通し之に導かれ之に同化し之と一體になることによつて、愛の滿足に到達し易いのであります。「我が敬愛する尊き男性を通じてまことの光へ」とは、少くも道に志す程の女性の僞らざる叫びでありませう。此場合、天上の愛と地上の愛とは最も混同され易く、眞に道を求める者にとつての危險もまた此處に伏在しますが、男子よりも生理的支配を受けること多く從つて感情的な女性にあつては、求道の過程に於て此の道を選ぶのは殆んど運命的なものでありませう。

以上の如く考へれば婦人にとつて愛の滿足即ち道を求めるとは、好き配偶を求むることを意味する所以が明かになり、從つて好き配偶は光に交渉をもつてゐるので、よき衣食住やよき名を求めるとは日を同じうして語つてはならぬ所以も分つた譯であります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

玆まで考へて來ると、結婚前は口癖のやうに眞理を談じ、世のはかなきを痛感してゐた婦人が結婚することによつて急に生れ變つたやうにおちついてしまつたからとて、それだけですぐ女子は道の器でないときめてしまふのは聊か早斷に失するかと思はれる。Ａさんが結婚後、熱中してゐた哲學宗教に冷淡になり、反對に編物や漬物の研究が面白くなつたのは、決して以前より眞理の愛が薄らいだからではなく、結婚によつて幾分なりと神聖な愛の滿足が得られ、Ａさんとしては獨身では味ひ得なかつた愛の醍醐味を味得し、神聖な愛の力によつて我慢は破れ、自然に無理なく內心のうつろや焦燥が醫されて、そのために文字や頭腦の哲學宗教は不用になり、返つて日常卑近な仕事の中に哲學を讀み宗教を生活する底の三昧境に住し得るまで進んだのかも知れない。これは最もよく想像した場合です。Ａさんとは久しく逢はないから昨今の消息を知る由もないが、若し果して右の通りだとすればこれは可成りの大事件で、私はＡさんのために如何に喜んでも喜び足りないのを覺えるのであります。無論此の場合愛の滿足は必ず魂しひと魂しひの結び合ひに始つて、やがて光との交渉にまで高められてゐる筈であります。光を離れたらもう結婚は肉と肉、及び肉から生れる感情の交錯に過ぎなくなり、道とは沒交渉であるから內心のうつろは滿たされず、魂しひの嘆きが始まるでせう。一時おちつくように見えて、編物や家事などに沒頭して見たところで到底はかない誤魔化しに過ぎない。此場合には配偶を求めるとは、神聖な愛の滿足でも道を求めることでも無論なく、單に浮世の快樂を求めると同じこ

とで、自らは我慾の連續に苦しめられると共に、浮世のものに過ぎない夫や子供には何時如何なる變事が生ずるかも知れないから當座のおちつきは直ぐ消えて浮世の嘆きを繰返すほかなくなるのであらう。Aさんが結婚しておちつかれたといふのが眞實ならば、それは何時かは破れるような地上の結婚の幸福に醉つて、魂しひの眞の叫びを暗ましてゐるのであらうか、それとも眞實の光の家庭に入られたのであらうか、それは私には分らないことであります。

たゞ最後に一言私は今夜の正客なるあなた方若い求道の御婦人方に申し上げたいのです。あなた方が好き配偶を求められるのはいゝ。それは光に到る一つの重要なる道に相違ありますまい。たゞ併し乍ら光に許されて配偶を求めるとは、其實は光を求めるに外ならぬことを夢にも忘れてはならぬと思ひます。世間では結婚は戀愛の墳墓なりと申します。天香師は結婚は死の門であり、ひとり戀愛のみならず、我が持てる一切を葬る墳墓だと申されます。かくして獨りでは捨て得なかつた男女が二人結ばれることによつて却て我執が破れ、徹底的に身命財を捨て得る奇蹟が顯はれたならば、實に祝福された結婚であります。かゝる奇蹟は地上の愛から天上の愛への道程に於て屢々あり得ることゝ信じますので、一燈園の若い婦人方も、獨りではおちつけず、結婚しておちつくにしても、砂上に建てられた家のような、いゝ加減なおちつきようではなく、磐の上に建てれた家のように浮世の荒波に揉まれてもびくともしない、徹底的捨身に立つおちつきようをして頂きたいといふことを、偶々Aさんが結婚しておちついたといふ話から思ひ附いて申して見たかつたのであります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

流るゝ水に記録す

松下吉衛

托鉢者を裝うてのぬすみとかたり！
ほんとにやつたのか？
それわ、あんまりひどすぎる、Aさん。
あなたばかりをせめようとわ、もちろん、思わない。また、一ト月二タ月一所にくらすことだけで、あなたの言葉づかい一つでもなをせるなどゆう大それた上増慢わ、もたないつもりだ。
でも、あんまりひどすぎる。

なに？Bさんが、またか……
　無責任な放言わ誰にでもできる——たとえ、それが如何に道德的な色彩を帶びていようとも。

路頭！おゝ！
それわ、私たちにとつて、むしろ勿體ないほど安住の天地ぢやないかね、そこに片影でもてらいがあつたら、識者わ顔をそむけるだろ。

Cさんよ、Dさんよ、Eさんよ、……
まごゝろのたらない私をせめよ
力よわいこの身をあざけれ。
切なし——しかし、私わ十分それに値する。

『運動資金を出してくれ、もつと便益を提供せよ。』
　衷心にその運動の純化と目的の達成とを熱禱しつゝも、こうした要求にそのまゝ應じ得ない私わ、社會改革に忠誠を欠くものだろうか？

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

『おれたち兄弟が、こんなに困つているのに食うものわなし、仕事わなし、居所わなし、……一體どうしてくれるのだ。宗教が何だ、社會事業が何だ？　木魚のポコ〳〵で何がどうなるとゆうのだ？　一燈園などよしちまえ！』

私わ手をついてあやまりました。

『そんな皮肉なまねわよしてくれ。』

言葉なき私。

その私――知れる限りの縁故をたどつての求人開拓と官廳や政黨や諸團體や有力な筋やえの訴えに微力を傾注しつゝある私。

あゝ貧しきこのいのりに力をたれたまえ、神さま。

私たちの參加した東京府社會課の自由勞働者失業調査の結果（一月二十三日現在）

簡易宿泊所　四十ヶ所
止宿自由勞働者數　二、六八四人
内　失業人員　一、二七六人
（四八％）

木賃宿　三六八戸
止宿自由勞働者數　四、四六一人
内　失業人員　一、九四五人
（四三％）

驚くべきこの數字よ！百人の中約四十人のものが、働こうとしても仕事を與えられずにいるのでわないか。今、責任論を云々するも詮なし。また「奉仕生活えの提唱」の最勝策なるにわ論なきも、之を以て能事終れりとせば、「いのりのかたち」に於いて完からざるうらみなくわないか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

あゝ世務を解するもの多く祈りなく祈りあるものに亦時代苦を直視する眞勇と經世の無邊際智とを有する士少し。野人の叫びきかれざるわ、畢竟、かくて失業者の存在を知る者多きも、その生活苦を感ずる者稀有なるによらんか。

さても、資本主義からくりの中軸を考えよ。それ、說くまでもなく、勞働力の賣買事實にあるのでわないか。資本家の利得――剩餘價値わこれから產れる。この事實を牢記せよ！國際勞働會議に「勞働非商品主義」の聲明わ紙をインキもて汚染せしほどのもの。眞實、資本主義の害惡を痛感するものわ、自己の勞働力が、ひとり主觀的の意思のみならず、また客觀的の事實に於いても、資本家不當利得の源泉たる剩餘價値の發生に資せざる生活を生活すべきである。

この人、一人いてよ、資本主義の源泉わそれだけ現實に涸渇するわけだ。

資本家も人間なりとゆわれる、然り、勞働者も人間だとゆう意味に於いて。

人間よ、人間よ、人間ならば勞働力賣買を止めよ、その時、新社會秩序來らん。

私たちの托鉢が、有產階級パトロンの風變りの玩具であつたり、「怠け者の天國」であつたりするなら、もとよりこれ笑殺し去つて可。

しかし、資本無所有と勞働不賣の生活淸規が徹して行ぜられる時、――白熱のいのりよ――價値觀の轉換なくしてやまんや。

目あるものわ見よ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

貧しきもの〻うたへる（詩二篇）

住田蓮車

われは貧しき乞食なれば
わがうたふことばはまづし
わが心おろかなれば
わがうたふうたはつたなし

朝おきて
巷にものごひし
日くれて
めぐまるゝところに眠る

さらばわがうた
すなほにてあれよ
そのまゝにてあれよ

わが生活は
おさな兒のごとく
力なくお光にやしなはる
ありがたし

さらばわれ
野にうたはん
巷にうたはん
わが生活がお光にやしなはるゝごと
わがうたも無理のあらざれ
そらごとを、いつはりごとを
われはおそる
貧しくとも
たゞまことをのみうたはせたまへ

×

おさな兒のごとく
われは貧しき乞食なり
われおろかなれば
なにをするすべも知らず

巷より巷をあるき
よばるゝまゝに
家に入り
しもべのごとくわれははたらく
われはたゞこの生活をよろこぶ
いと小さき一人となりて
巷のちりにしたしめば
お光はわれをはぐくみたまふ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一燈園の暮れと正月

八田勝三

『一石の御餅が三日でなくなつた年もあつたさうですね。』

年末も年始も無いやうな私達の生活の上にもクリスマス夜の集りには、斯んな話も取交されて、典座さんがボツ〳〵御正月の準備に掛つて下さる。何がさて廿一日には在園者數が二百名を超えたのだから、概算約百名御歸園なさるだらう。さうとすれば御餅は矢張り一石位いるだらうと、御煮〆も約二百人前位は用意しなくちやならないだらう。

『大晦日には餘りバタ〳〵したくありませんから、廿八、九日に御煮〆を作らへ、御米洗ひを廿九日にすませ、卅日には御餅つきをしやうと思ひますが、如何どすやろ。』

との典座さんの御相談に、萬事よろしく御願ひする。そして女の方には敷布や、枕覆の御洗濯を始めて頂く。

廿九日はいよ〳〵御米洗ひだ。

『丑年同志が御米洗ひです。典座さんも丑年。來年は私達の年ですね。』

鉢卷きに襷掛けといふ景氣の好い格構で、朝山さんと植松さんとが、盥に一斗御米を量り、向ひ合せになつてゴシ〳〵といでは、四斗樽へ移してゆかれる。比叡下しに手は眞赤になつて居ても大變な元氣だ。燈影小壁、三木、新見樣などのも一諸にして壹石六斗五升。御餅つきには吉例になつて居て、毎年御手傳ひ下さる河瀬老人は、生憎風邪で來て頂けなかつたが、天香樣は前晩から御返り下つて、禪堂の隅で御やすみになる。

つくだけでざつと十二時間。托鉢で御疲れの

皆様には濟まないが、午前三時すぎ、勇ましい杵の第一音が、同人の夢を驚かす。始めの內、薪が惡くつて火力が弱いため、手をあけて遊ぶ事も多かつたが、男女合せて十四五人の御手傳ひ手があるから、嫌でも片付いてゆく。夕方御煮〆の入つた紅鉢の列や、禪堂一面に並べられた小餅を見て、これだけが皆人の口へ入つて了ふのか知らと思ふと、一寸恐ろしやうな氣がした。つき終つたのは豫定通りに、午後三時すぎ。後片付けをやつて居る內に、冬の日は直ぐ暮れて了つた。

大晦日は皆樣路頭に居られて、園では早く御勤を濟ませて了ふ。御病人が男の方四人。當番と典座。女の方は藤井さんが出產に間もないので、相賀さんにも用意のため殘つて頂く。借金取りの心配も、春着の用意もいらない私達の生活の有難さ。除夜の鐘も聞かないで、華胥の國へとび込んで了ふ。

明くれば元旦。と云ひたいがそんな氣持もしない。導師一人のやうなお勤めをして、朝は御茶漬けですませて了ふ。十時頃からボツ〳〵同人が歸つて來られて、

『御目出度う御座います。』

との御挨拶に矢張り御正月なんだなあ位の氣がする。

午後二時すぎ、板間にも莫蓙を布いて、ぎつしり目白押しに同人が並び、天香樣を導師に迎春の御勤めが始まると、本當に新らしい年になつたのだと意識される。

『寫眞を撮つて頂きますから裏山へ集つて下さい』

と怒鳴つて廻つて、皆樣に出て貰つた後、禪堂には雨戶に白布をかけた食卓が三ヶ所に出來る。御煮〆が運ばれる。御茶椀が躍る。寫眞が

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

濟むと、天香樣に書いて貰つた箸紙を渡すので一苦勞。一度に三十人宛しか頂けないのでテーブルを換える事四度に及び私達の頂いた頃には到頭日が暮れて了つた。夜の集りには天香樣からは皆樣に感話をと云はれ、當番の指名で御話し下つたが、中々好い御話が出た。

二日は自由行動だ。例年叡山へ登るのが盛んで今年は男女合せて十八人の元氣な方々。暗くなつてから一名の落伍者もなく歸つて來られたが隨分寒かつたか、火鉢の傍が賑ふ。晩は一寸昔に還つて、一同婆婆氣を出し、十二時すぎまで遊ばせて貰つた。

前晩遲かつたので、三日は六時迄やすませて頂く。午後は燈影小塾で催しがあるので、皆樣御出掛けなさる。安藤洲一樣の論語の講義は、手に入つたもの、その後で、天香樣の小話があり、安倍川の御供養をうけて散會する。歌留多の御好きな方は殘られて、一合戰あつたやうである。

三日間は世間並の生活に還つたやうな同人も四日目からは、何時もの通りに托鉢に行つて下さる。百五名の歸園に、一寸まごついたが、三々五々、それ／＼の禱地へ歸つて行かれると、鹿ケ谷は元の靜寂に還つてお正月も何處へか行つて了ふ。典座さんを御手傳ひ下つた方々が、疲れやすめに、法然院あたりを無相遊歩なさる晝は、園内には人聲も聞えない。

「巡禮の如く、旅人の如く、托鉢に明けて、托鉢にくれる世界をボツ／＼行けば好いのだ。」

斯う思ひ乍ら、當番室でやりつぱなしてゐた年賀狀の整理にかゝつたのは四日の午後であつた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

栃木縣鹿沼に
惠まれたる御光

＝鹿沼一燈園の禱立＝

木魚生

　大正十三年八月十五日の午後日光線、鹿沼驛頭に飄然と姿を現した、見るからに薄汚ない紺の筒袖を着た、みすぼらしき青年がありました、この青年は栃木縣一流の資産家にして有名な麻問屋長谷川家の長男に産れた榮一郎さんであつたのです。

　當地の人達は近頃まで現代式文化生活者の代表的タイプでゞもあるやうに思つてゐた其の頃の榮一郎さんを知るものは誰とて此の薄な汚い坊主頭の乞食姿とも謂ふべき青年を長谷川家の若主人と觀る者はあらふ筈もありません、それ程極端に姿が變つて居ります通り榮一郎さんの人間的本質と全然生れ變つた別人の樣な内的生命を黒き衣に包んで郷土を踏まれたのであります。

　年餘西田天香師に就て隨所々々を道場となし鐵の如き意志を熱火の中に叩き拔て來られた涙多き物語りは其の淸く輝く眼に燃え豐に惠まれた筋肉の一片にも溢れてゐますが誰か此内的生命の香を看取し得る人のあらふ筈もありません

　一歩足を己が生家に踏み入れられた時、過去二十有餘年厚く育くんで下すつた御兩親に對し長谷川家の祖先に對し何の感謝も持たざりし過ざ越し方も思ふにつけいたく〳〵恥じたる懺悔の心は知らず〳〵店員さん達のぬぎ捨た履物の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

亂を直して居られました、嗚呼其の姿、極度にへり下れる其の態度は先づ多數の店員さん達を驚かし何れも唯顏を見合すのみにて誰も一言を發するものもない程、蛙然且粛然！何か威大なる力が流れた樣に感じられた相です。

御兩親の驚きは申までもなく弟妹さん達は紫一樣にお兄さんは氣が變になつたものと思はれた事程左樣に榮一郎さんの態度は嚴粛と眞劒其のものであつたのです、爾來御兩親に對して神に仕ふる如く多數の店員さん達に對しては主人に對する如く朝は未明に口嗽ぎ店員さん達の便所を淸め擴大なる御邸の全部に亘つて徹底的に箒き淸めを爲さるゝとともに水浴に身を淨めて朝夕の勤行を怠らずと云う鹽梅に殆ど人間として爲し得る全部を盡して尙足らざるを恐れて居られる貴き行ひは誰とて淚なく見ることが出來ましやふ。

貴き自然の流は先づ手許の店員さん達を動かしました次で長谷川家の全體に移り工場の女工さん達に至るまで僅々三旬を出でずして殆んど隔世の觀ある程淸祥な空氣につゝまれた長谷川家を見出されたのであります。

當家中興より三代目の最も大切なる時機に際し榮一郎さん出てゝ盤若の安きにおかれた長谷川家は今後愈々彌か上にも榮る事でありましやふ。

此の威大なる惠みの力はいかて獨り長谷川家のみに止まりましやふ、榮一郎さんのいみじくも黑き衣の色さむるに從ひ内部に包める熱火は次から次え燃え移り長谷川家の別邸擁翠園を中

心さして雲の如く黑衣の去來！一丸となつて火の柱と燃え擴り今や其の箒目は全鹿沼に及び驚異の眼を見張られて居ります。

惱める人達の托鉢に依つて救はれ生還された方々惱める家の救はれて厚き御光の惠に抱かれるやふになられた實例は今日まで十指に餘る程てあり秩序立つた社會奉仕機關も二三生れて參りましたが具體的に書かして頂く折もあらふと思ひますから後日に讓らして頂きます。

大正十三年八月十五日鹿沼驛頭にポッネンと現れた黑衣のみすぼらしき青年長谷川榮一郎さんに依つて齎らされたる御光の惠は今や全鹿沼を包み燃えに燃ゆる火柱は渦卷となつて宇都宮市に燃え擴りつゝある次第です。

嗚呼御光の威大なる惠の力よ。私は當地の此の現狀にふれて思はず感慨にふけりました。曾て威大の眞味を解せざりし私は此の實在を觀て眞に驚き且つ恐れました、一個六尺に充たざる肉體が眞劍に下座する時此の恐るべき威力の動かふとは………嗚呼

昨今當地の寒さは雜布を絞る間に氷る程ですが鹿沼一燈園の當番さんとして足袋も用ゐず日夜下座奉仕に餘念なき榮一郎さんの貴き姿は思はず合掌せずには居られません。

光明遍照十方世界念佛衆生攝取不捨

南　無

（十三、十二、二十二宇都宮托鉢の宿にて）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

横濱一燈園だより

石井文雄

樺太から歸られた、益田氏が他人の手で作られた家に住むのはいやだといふので、大正十年の暮、保土ヶ谷の乘蓮寺傍の崖下に藁、アンペラ杉皮、簾を以て自身家を作られました、それが柿木一燈園の生立です。茶室まがひの雅味ある家で、根廻り二尺程の柿の木を柱として居りました。

其後植松様がお預かりし、しばくして二三の同人の手によつて育てられました。何分横濱といふ土地は氣分の荒い港街でありますので、同人の苦勞も並大抵なことではありません。なかにも植松様が深く根強く祈られた御蔭で、福田のうちから種々な仕事が生れました。

それから間もなく植松様が京都に去られ、東京の方も人手がなく暫くそのまゝにしてありましたが、一昨年の春、天香さんが東上の途中一寸御寄り下さつたので、息をふきかへした様な感がありました。「柿殿や何分どうぞたのみます」と唐紙へ樂書されたのもこの頃のことでした。しかし何分非常に寄りつきよい様でなかく長續のしない土地だけあつて同人はしばらく居るうちに、たいてい路頭に立たなければならない様な場合に遭遇しました。そうかうして居るうちに例の關東大震災で、園は立木のこと故何の障もありませんでしたが、バラックの材料として、無趣味な人の手でさうくとり壞されました。同人も全部東京へ集注されました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

焼土の上から號ばれた聲は三万の生靈を弔ふ爲めに聖き街を建設せよといふのでありましたが、一月たち二月たちするうちに人達の心にゆるみが來ました。復興の魁は先づ遊廓です。横濱名物のチャブ屋、怪しげなカフェが雨後の筍の様に出來、手から口への生活はやがて肉から肉への生活になりました。ほんとにあぶない生活です。

ところがふとした縁で丸山、河合、藤田さんが托鉢され後天香さんが講演して下さいました

十一月六日　横濱高等工業學校　聽衆約七百名
〃　公衆集會所　約四百名
〃　七日　縣立工業學校生徒　約五百名
八日　横濱聯合婦人會有志　約五十名
十一月十九日　縣警察部首腦　約二十名
十二月十九日　横濱家庭學園　約八十名
〃　神奈川幼稚園　約百五十名

ほんとに皆い〻集りでした、浮ついた生活の中でもどこかに道を求めて行く人達の多いことに力強さを感じました。

とにかく横濱における一燈園は黎明期に達したといつてい〻でせう。托鉢先でも皆喜んでくれます。火が燃えさうです。どうぞ祈つて居て下さい。

●本號表紙題字
凝然大德書
華嚴經　探玄記　洞幽鈔より
いたゞきました。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

謹告

拝啓　同人機關誌『光』は從來東京宣光社名義にて發行致居候處今度宣光社の組織を改め發行及編輯の事務分擔を左記の通りに變更いたし候間さやう御諒承たまはりたく此段謹告仕候　頓首

大正十四年二月

伊藤猛　西田天香
西田保太郎　小此木渾沌
中桐確太郎　松下吉衞
（いろは順）

京都市烏丸頭小山下總町五
回光社内
發行兼印刷人　西田保太郎
振替　大阪五九八三九　東京五七六七一

東京市本所區林町二ノ七八
編輯人　松下吉衞

附記
誌代は　京都市　回光社へ
玉稿は　東京市　松下吉衞へ

編輯人から

本誌わ一燈園の同人光友の機關誌たると共に、一燈園生活そのものに對する自由眞摯な評壇たる使命を擔いたいと思います。もとよりこれ論を好むがためにあらず、吾等が本願の成就を祈ればのこと。それで、掲載記事に對する異見わ皆さんから腹藏なく發表していたゞき、私共の生活を、この方面からも錬りに錬つて、獨斷論に禍されることのない生命力の漲つたもの、最も嚴正な意味の批判に堪えるものに磨き上げ、人類愛の生活化と社會的正義の確保と兼れて文化諸相の調整とに聊か貢献したいと願つています。（松下）

定價　一ケ月分　金二十錢
一ケ年分　金二圓四十錢（郵稅共）

大正十四年二月十三日印刷納本
大正十四年二月十五日發行（第三十八輯）

京都市烏丸頭小下總町五
回光社内
發行兼印刷人　西田保太郎

東京市本所區林町二ノ七六
編輯人　松下吉衞

京都市烏丸頭小山下總町五番地
發行所　回光社
振替　大阪五九八三九　東京五七六七一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

吉田暎二第一戯曲集

疲れた家

定價貳圓五拾錢
紙數三百三十頁
裝幀美本箱入

内容
疲れた家　兎と龜
道化　父

此處に納めた四篇は皆自分の習作に外ならないけれども、自分にとつてはどうにもならない問題のみを取扱つたものだ。『道化』では、「藝」と「家」、『父』では「家」と「道」との間の關係を取扱つた。「藝」に入るには、又「道」を修めるには、はたして「家」から出、家を捨てなくてはならないだらうか。それが正しいだらうか。自分にとつては可也大きな問題である。又「疲れた家」では現在の日本の中産階級のだらけきつた姿、無爲と困憊の内にしぼんで行くすがたを、比較的客觀的な立場から見つめさせて貰つた。いづれも藝術としては未熟ではあるだらうけれど、自分として取る態度と立場は今後と雖もこの小さな戯曲集より外へ出る事はないであらう。（著者）

發行所　東京市小石川區第六天町二四　段丘社　振替東京六四六七九番
發賣所　東京市日本橋區元柳町十　青々堂書店　振替東京四一八八三番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN